

ずれについても、全く誤ることなく理解するものの割合がいずれの場合にも増加する。特に体液の理解については事前24.4%から事後78.3%へと3倍以上の増加がみられた。行為の理解についても事前50.3%から事後78.4%へと増加した。

⑤ AIDSは遺伝しないことを理解する

「AIDSは遺伝するか」の問いに対し、「いいえ（遺伝しない）」と正しく回答するものの割合が事前23.3%から事後60.6%へと大幅に増加した。また、「はい（遺伝する）」と誤った回答する割合が事前43.5%から事後23.7%へと大幅に減少した。（図 f-8）

(2) HIV/AIDSや性等に関する意識の向上

① AIDS問題を自分自身の問題ととらえる

「AIDS問題を自分自身の問題として考えられるか」という問いに対し、「はい」と回答するものの割合が、事前30.8%から事後55.9%へと増加した。「いいえ」と回答するものの割合は、事前20.8%から事後12.2%へと減少した。半数以上のものが自分自身の問題であると意識の好転がみられる。（図 f-9）

② AIDSや性について話してみたい割合の増加

「AIDSや性について話してみたいか」という問いに対し、「はい」と回答するものの割合が、事前20.8%から事後32.9%へと増加した。（図 f-18）

③ AIDSへのイメージの好転

一部の高校生に事前におこなった「性のイメージ」の自由記述によると（図 f-24）、「その他・特になし・わからない」を除いた場合、人数の多いものから順に「当たり前・普通のこと・性器・自然・男女」「いいこと・大切なこと・よいイメージ」「性欲・快楽・えっち・SEX」であった。他方、「AIDSのイメージ」に対する

事前の自由記述では（図 f-25）、そのイメージは人数の多いものから「怖い・危ない・危険・なりたくない・困る」「治らない・難しい病気・大変な病気」「死・死ぬ病気」であった。

しかし、事後における「AIDSのイメージが変わったか」の問いに対し、全対象者のうち、63.3%が「はい」と回答している。（図 f-20）

④ 感染症を身近な病気としてとらえる

参加した高校生のうち、性別をたずねたケース（N=4086）では、女性50.0%、男性48.5%、無回答0.7%、回答困難と答えたものの割合は0.9%であった（図 f-1）。このうち、「感染症は身近な病気か」という問いに対し、「はい」と回答するものの割合が、事前36.4%から事後52.3%へと増加した。「いいえ」と回答するものの割合は、事前25.5%から事後17.7%へと減少した。HIV感染に限らず、性感染症も含めた感染症全般と自らとの関連を意識するとらえ方となっている。（図 f-10）

⑤ 妊娠を身近なこととしてとらえる

加えて、「妊娠は身近なことか」という問いに対し、「はい」と回答するものの割合が事前31.3%から事後45.2%へと増加した。「いいえ」と回答するものの割合が事前34.3%から事後24.7%へと減少した。（図 f-11）

⑥ 性を自分自身にとって大切だと認識する

さらに、「セックスは自分にとって大切だと思うか」という問いに対し、「はい」と回答するものの割合が事前28.4%から事後36.6%へと増加した。（図 f-16）

⑦ AIDSや性に関するコミュニケーション機会と問題認識の向上

AIDSや性について友達と話してみたいかの回答別にみるAIDSを自分の問題と考えるものの割合の変化は、事前事後ともに

友達と話してみたい人ほど、自分自身の問題であると回答している。しかし、性のことにに関して友人と話すことに抵抗をもっている、事後には事前よりも自分自身の問題と認識する人が増加した。(図 f-32)

(3) PWH/A に対する態度の好転

① ともに生きる態度への好転

日常生活場面における身近な人への行為については相手が感染者だとした場合、「隣に座っておしゃべり」「握手する」「プール・温泉に入る」などの学校生活及び日常生活場面において「抵抗なくできる」と回答するものの割合がいずれの場合も増加した。この傾向は一般のそれにおいても同様であるが(図 f-2)、上昇率は一般のそれと比べて高い(図 f-31)。

感染経路に関する知識と PWH/A に対する態度との関係については(図 f-33)、体液行為とともに完全に理解できていればいほど PWH/A に対する態度の好転変化が見られた。他方、完全な理解ができていなくとも、PWH/A に対する態度の好転は見られた。(図 f-12)

② 具体的な予防、啓発活動に対する明確な意思表示の出現

一部の高校生に事後おこなった「今後何かしてみたいと思ったか」という問いに対し、「はい」と回答するものの割合が 14.1%であった。その具体的な内容は、人数の多い順に「予防をする(コンドームをつける)」「ボランティア協力」「AIDS について勉強したい」「AIDS や性についてまわりに伝える」「差別をしない」等であった。(図 f-22)

(4) 自尊感情、他尊感情の好転

① 自尊感情の向上(図 f-19-1)

プログラム参加後、「自分のことを今までよりも考えるようになったか」の問いに対し、66.5%の人が「はい」と答えた。また、

「自分のことが好きか」という問いに対し、「はい」と回答するものの割合が、事前 29.2%から事後 35.3%まで増加した(図 f-13)。さらに、「自分の心と体を大切にしているか」という問いに対し、「はい」と回答するものの割合が、事前 53.1%から事後 59.3%に増加した(図 f-14)。

② AIDS 問題への認識と自尊感情(図 f-34)

「自分自身の心と体を大切にしているか」と「AIDS 問題は自分にとって身近な問題か」の関係については、事前では「自分の心と体は大切だが、AIDS 問題は身近な問題かどうかわからない」人が最も多く、次いで「自分の心と体は大切かどうかわからないし、AIDS 問題は身近な問題かどうかわからない」ものが多かったのに対し、事後では「自分の心と体は大切であり、AIDS 問題は身近な問題である」と回答するものが最も多く、次いで「自分の心と体は大切であるが、AIDS 問題は自分にとって身近な問題かどうかわからない」ものが多かった。

また、一部の高校生に実施したもののうち、性感染症への認識と自尊感情との関係については、事前も事後も「自分の心と体は大切であり、性感染症は身近な問題である」と回答するものが最も多いが、事後はその回答が突出する結果となった(図 f-35)。

さらに、妊娠への認識と自尊感情の関係については、事前には「自分の心と体は大切であるが、妊娠は身近な問題とは思えない」と回答するものが最も多く、次いで「自分の心と体は大切であり、妊娠は身近な問題である」であったのに対し、事後ではその結果が反転し、「自分の心と体は大切であり、妊娠は身近な問題である」と回答するものが最も多くなった(図 f-36)。

③ 他尊感情の向上(図 f-19-2)

プログラム参加後、「自分以外の人のこ

とを考えるようになったか」の問いに対し、「はい」と回答するものの割合は、68.9%であった。また、「自分以外の人の心と体を大切にしているか」の問いに対して、「はい」と回答するものの割合は、事前の55.9%から事後の63.6%に増加した(図 f-15)。

④ 行動変容と自尊感情、他尊感情の関係(図 f-37)

一部の高校生に実施した結果のなかで「今回の経験を通して何かをしてみたいと思ったか」の回答別にみた「自分のことを今まで以上に考えるか」の関係は、「何かをしてみたいと思う人ほど、自分自身のことを考える」割合が高かった。また、「今回の経験を通して何かをしてみたいと思ったか」の回答別に見た「自分以外の人のことを今まで以上に考えるか」の関係は、「何かをしてみたいと思う人ほど、自分以外の人のことを考える」割合が高かった。

さらに、「今回の経験を通してこれから何かをしよう」と思ったものの具体的行動別にみる「自分のことを今まで以上に考えるか」との関係は、具体的に実行可能であると提示できる人の多くは、自尊感情、他尊感情ともに高く、最も人数の多い具具体的行動は性行動における自らとパートナーに対する尊重意識に結びつく「予防をする(コンドームをつける)」であった(図 f-38)。

(5) 若者相互の啓発スタイルに対する肯定的評価

① 参加してよかったと回答するものが6割以上(図 f-21-1)

事後に実施した「プログラムに参加してよかったか」という問いに対し、「はい」と回答した人は62.5%であった。そのうち、一部の高校生にその具体的感想を求めたと

ころ、「勉強になった・いい経験・普段聞けないことが聞けた」が圧倒的多数であり、次いで「わかりやすい・堅苦しくない・丁寧・楽しい」であった(図 f-28)。

② 4割強が参加して楽しかった(図 f-21-2)

「プログラムに参加して楽しかったか」という問いに対し、「はい」と回答した人は42.5%であった。「普通」が50.3%であった。

③ 若い人達が進めたことへの肯定的評価(図 f-23)

「プログラムを若い人が進めたのはどうだったか」という問いに対し、「良かった」と回答した人は59.6%、次いで「普通」が35.6%であった。そのうち、一部高校生にその具体的な理由を求めたところ、「親近感がもてる・身近、フレンドリー・安心・気軽」が最も多く、次いで「説得力がある・聞きやすい・わかりやすい」「同じ立場に立っている・気持ちが似ている」であった(図 f-27)。

(6) 全国高校生とA県高校生の比較を通した全国展開の可能性

全国高校生とA県高校生との事前・事後の比較を「AIDSや性について友人と話してみたいか」の回答別にみた「AIDS問題を自分自身の問題と考える」者の割合の変化でおこなった。その結果、全国高校生とA県高校生のいずれもが、AIDSや性に関して友達と話してみたい気持ちがあり、かつ、AIDS問題は自分自身の問題であると感じるものの割合が増加した。加えて、AIDSや性に関して友人と話してみることに抵抗があるものでも、AIDS問題を自分自身の問題と考える傾向が強まることが明らかとなった。

II. 教育段階別、実施規模別、プログラム内容別から見た効果

(1) 教育段階別にみる啓発効果

①中学生からの啓発が正しい知識の獲得、態度の変容に効果的

「感染の可能性のある行為」に関する知識の獲得及び、「HIV感染者に対する抵抗なく握手ができるものの割合」の変化はどの教育段階でも上昇する。プログラム実施前後の変化がもっとも著しかったのは中学校での実施で、「感染の可能性のある体液」に関しては、事前11%から事後74%で、「感染の可能性のある行為」に関しては、事前26%から事後76%であった。

さらに、「HIV感染者に対して握手できる」と回答するものの割合の変化も中学校での変化がもっとも著しく、事前45%から事後73%であった。

② 教育段階および年齢が高いほど、自分自身の問題と感じ、AIDSや性について友人と話したい

「AIDS問題を自分自身の問題と考えるか」および「AIDSや性について友人などと話してみたいと思うか」の問いに対し、「はい」と回答するものの割合は事前事後ともに専門学校生、大学生の割合が高く、その変化も著しかった。「AIDS問題を自分自身の問題と思うか」については、専門学校生では事前52%から事後79%、大学生は事前40%から事後75%であった。「AIDSや性について友人などと話してみたいと思うか」については、専門学校生では事前59%から事後80%、大学生は事前55%、事後77%であった。

(2) 実施規模別にみる啓発効果

・若者相互のプログラム実施での啓発効果は高く、AIDS問題に関する認識促進、AIDSや性に関するコミュニケーションの促進は、少人数であるほうが効果は高い

「感染の可能性のある体液に関する知識の獲得」「感染の可能性のある行為に関する知識の獲得」「HIV感染者に対する握手がで

きる態度」に対する変化は、実施規模のいずれの場合にも上昇した。

他方、「AIDSを自分自身の問題として考えるか」の問いに対して、「はい」と答えるものの割合の変化は、50人未満の参加規模では事前38%から事後67%と最も変化が激しかった。さらに、「AIDSや性について友人と話してみたいか」の問いに対して、「はい」と答えるものの割合の変化は、同じく50人未満の参加規模では事前33%から事後54%と最も事後の結果が高く、身近な人と話してみたいと考えるようになっていた。

(3) プログラム内容別に見る啓発効果

・AIDSや性に関するコミュニケーションを促進するためには、参加型プログラムでの啓発効果が高い

講演のみの場合と参加型プログラムであるワークショップを含めた場合との比較にみる「感染の可能性のある体液の完全正解率」「感染の可能性のある行為の完全正解率」「PWH/Aに対して握手ができると回答するものの割合」「AIDS問題を自分自身の問題と考える」の変化はいずれの場合も、ワークショップの有無に関しては優位な差は認められず、いずれの場合も上昇変化が見られた。他方、「AIDSや性について友人と話してみたいか」に関する回答は、ワークショップを実施した場合のプログラムのほうが「話してみたい」と回答するものの割合変化が大きく、啓発効果は高い。

D. 考察

I. 調査全体に見るHIV/AIDSに対する知識・認識・態度等に関する結果から以下のことが明らかとなった。

- ① HIV/AIDSに関する正しい知識の習得
- ② エイズ・性感染症を自分の問題と考える

者の割合が増加した

- ③ HIV感染者に対する態度が好転した
- ④ 自分自身と他者に対する心身尊重意識の向上
- ⑤ 性はたいせつなものと思い、AIDS に対する認識が好転する者が増加した
- ⑥ AIDS や性について友達と話してみたいと思う者の割合が上昇した
- ⑦ 予防行動、ボランティア活動や自主的な勉強など具体的な行動変容への意思表示が現れる
- ⑧ 知識・認識・態度には関係性があり、知識伝達のみにとどまらない啓発が可能である
- ⑨ 若者による啓発のスタイル及び、プログラム内容を過半数の者は良いと答えていた

日本における、AIDS に関する若者への啓発は、自らの日常生活の習慣と関係するものであるとの理解が低く、自分自身の問題だとの関心が低下している。本来、喫煙、飲酒とどのように、一般生活習慣病と同様の取り組みが必要であろう。

高校生に対するアンケート結果を見ると、感染症という病を身近に感じ、性に対する比較的肯定的なイメージが以前より多いのに対し、AIDS に対するイメージは各教育段階で取り組みがなされているにもかかわらず、否定的であった。これは、知識伝達重視の中身では、認識や行動変容に結びつきにくいことが伺われる。

単なる知識伝達ではなく、自らの性やいのち、他者とのかかわりを意識しながら体験的に学ぶ機会を持つことの可能なワークショップ形式の啓発形態は、知識が不十分であっても、態度の好転的変容が見られ、AIDS や性に関するコミュニケーションに抵抗がある時期においても、AIDS 問題への認識が高まることいえる。このことから、各教育段階において

継続的に知識、認識、態度を含めたプログラムの一貫した実施が望まれる。

本研究から、教育現場のなかで若者による若者への啓発の機会を体験することは、参加した若者自身が行った後、主体的に AIDS の予防、啓発が実施できるようになる傾向が強い。実現可能な行動をロールモデルと出会い、自らとのかかわりから見出していくことが実際の行動変容に結びついているといえるだろう。また、自尊感情、他尊感情が高ければ高いほど、具体的な予防行動や PWH/A へのかかわり態度が表明された。このことから、自らと異なる他者に対する理解と支援方法の理解にとどまることなく、若者自らの心身に対する関心の向上をあわせておこなうことが重要であろう。

II. 教育段階別、実施規模別、プログラム内容別から見た結果から以下のことが明らかとなった。

①教育段階ごとに連続性と一貫性を持った啓発が必要

②年齢、発達段階に応じた日常生活活動を意識したプログラムが必要

③ 若者の相互作用による啓発効果を得るためには、一定の希望での実施が必要

④ 体全体を通して自己と他者とのかかわりについて学ぶスタイルが効果的

全国的に AIDS 啓発・教育は多様な取り組みがなされているものの、具体的な内容を避け、高等学校以上から始めるべきとの意見もある。しかし、AIDS 啓発・教育は早い教育段階から、少なくとも中等教育段階から取り組むことが必要であり、その内容も知識にとどまらず、人権、共感的理解の態度の形勢を含むものであることが望ましいということが明らかとなった。また、専門学校、大学教育段階の若者は、HIV/AIDS をより身近な問題と考え、AIDS や性について話してみたいと考えるものの割合が多く、ピアな立場での AIDS 啓発の担い手

となる可能性が高いことが示唆される。

YYSP の参加規模別に見ると、その規模に限らず、知識・認識についての啓発効果があることが明らかとなった。また、AIDS について有人と話してみたいと回答するものの割合が 50 名未満の参加規模で最も高かったことから、ピアの担い手による育成は少人数での啓発が効果的であることが示唆された。

啓発プログラムにおけるワークショップの実施により、AIDS や性に関して積極的に他者とコミュニケーションの機会を持ちたいと希望するものの割合が増加すると考えられる。これは、友人・パートナー・自分自身を PWH/A の立場に置き換えてみることにより、PWH/A の心理面・自らの行動を創造し、共感する機会が影響していることが示唆される。

AIDS 啓発プログラムには、知識と同時に事故への気づき、PWH/A を含む他者への関心、かかわりに関するプログラムを含むことが望ましく、共感的理解に関するプログラムを含むことが効果的に知識の習得、予防、人権啓発を進めることが明らかとなった。ピアの担い手を育成する際には、ワークショップの形態を深めていく必要があることが確認された。

E. 結 論

若者相互の啓発プログラム (YYSP) の参加者 11711 名を対象として、実施前と実施後の同一項目のアンケートの回答内容を分析した結果、以下の点が明らかとなった。

- ① YYSP による若者啓発プログラムの予防および人権にかんする啓発効果がみられた。
- ② A 県高校生と全国高校生のいずれにも同様の効果があり、全国で展開することによる効果の波及が期待できる。
- ③ ワークショップ形式をとりながら進める啓発は、知識の習得だけでなく、AIDS を自らの問

題とする認識、自己及び他者、PWA に対する姿勢の変化の効果もあり、行動変容につながる可能性が示唆された。

- ④ 中等教育の段階では、知識の習得の効果が大きかった。知識習得には早期から始めることが効果的であることが示唆された。
- ⑤ 専門学校、大学等の教育段階では、AIDS に対する認識の高まり、AIDS や性についてのコミュニケーション姿勢の変化が顕著であり、ピアの担い手となる可能性が期待される。
- ⑥ 若者相互のかかわりを通じたプログラムの実施は、若者によるロールモデルの提示としての有効性が示唆された。

F. 健康危険情報 なし

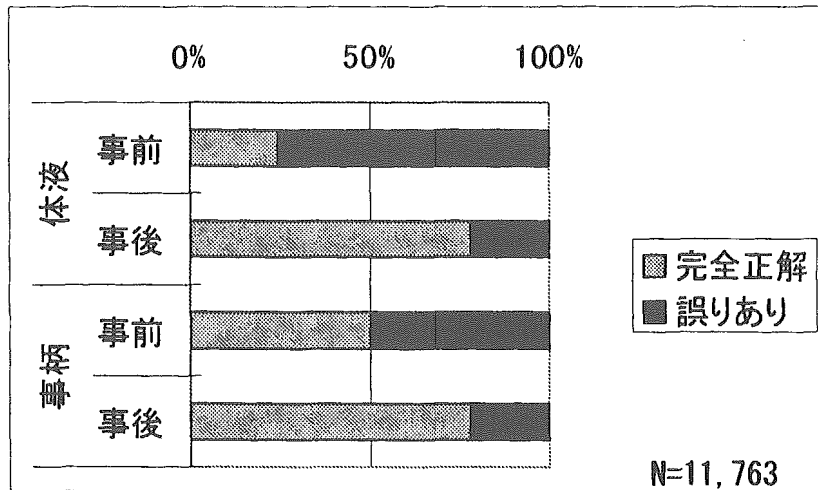
G. 研究発表

- 五島真理為：トレーニングされたボランティアの力を最大限に活用。社会運動，市民セクター政策機構，2004，296；48～49。
- 伊藤麻里子、五島真理為、木下ゆり、ストロネルケイトリン、阿部しのぶ、塩入康史、大郷宏基、新庄文明、伊藤葉子：AIDS/HGO が実施する若者相互の AIDS 啓発—全国調査の分析を通して—。日本エイズ学会総会，2004，日本エイズ学会誌，6(4)；538。
- 伊藤葉子、五島真理為、伊藤麻里子、木下ゆり、塩入康史、新庄文明：各教育段階における若者相互の AIDS 啓発プログラムの効果。日本精神衛生学会創立 20 周年記念大会 (2004、東京)。プログラム・発表抄録集，2004，26。
- 五島真理為、伊藤麻里子、木下ゆり、塩入康史、伊藤葉子、新庄文明：若者相互の AIDS 啓発プログラムと共感に関するワークショップ。日本精神衛生学会創立 20 周年記念大会 (2004、東京)。プログラム・発表抄録集，2004，27。

H. 知的財産権の出願・登録状況

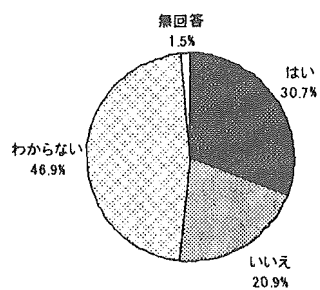
1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 総括報告に記載

若者相互のAIDS啓発プログラム:事前・事後の変化
 ~感染に関する知識の完全正解者の割合~

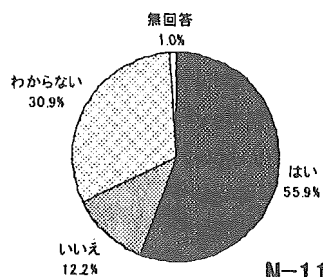


若者相互のAIDS啓発プログラム:事前・事後の変化
 ~「自分の問題と考える」者の割合~

Q6前 AIDS問題を自分自身の問題として考えられるか



Q6後 AIDS問題を自分自身の問題として考えられるか



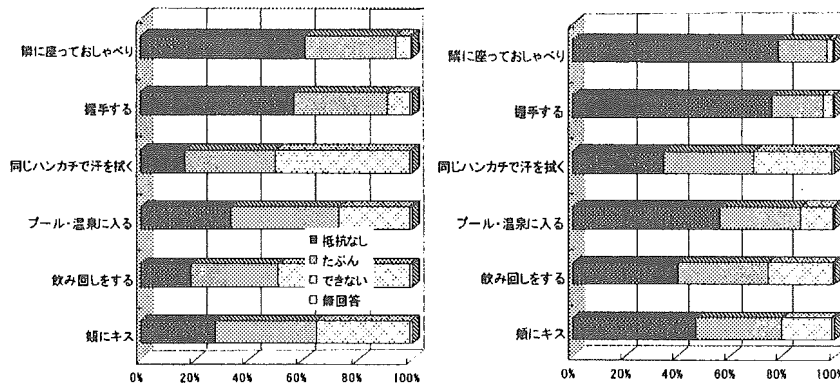
N=11,763

若者相互のAIDS啓発プログラム：事前・事後の変化 ～感染者への共生の姿勢～

N=11,763

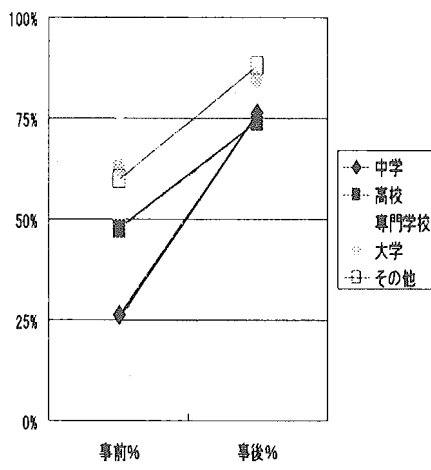
Q9前 身近な人にできること(感染者)

Q9後 身近な人にできること(感染者)

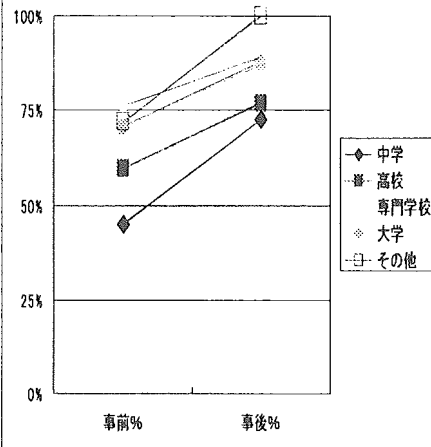


教育段階別にみた若者相互の啓発プログラム：事前・事後の変化

学年別 「感染の可能性のある行為」に関する知識の獲得

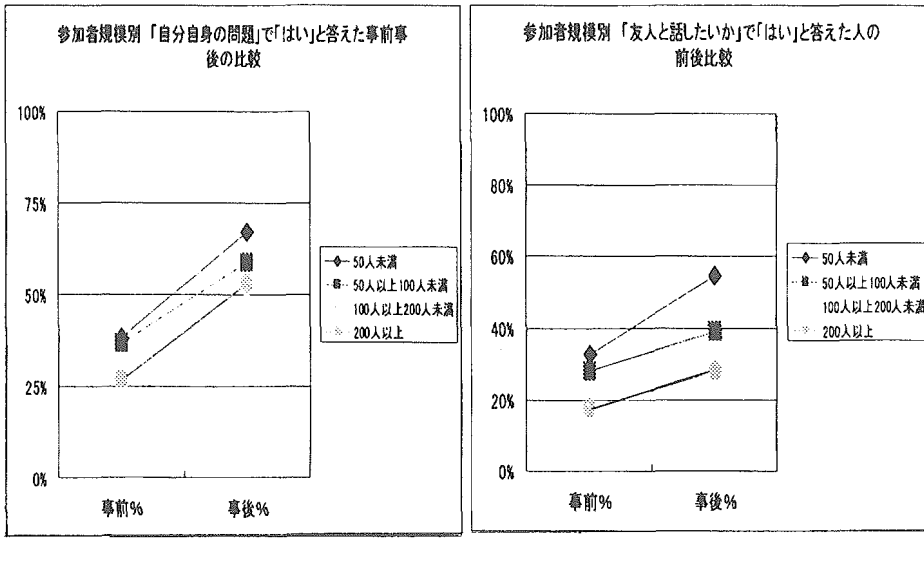


学年別 HIV感染者に対して「握手を出来る」の回答者の割合の変化

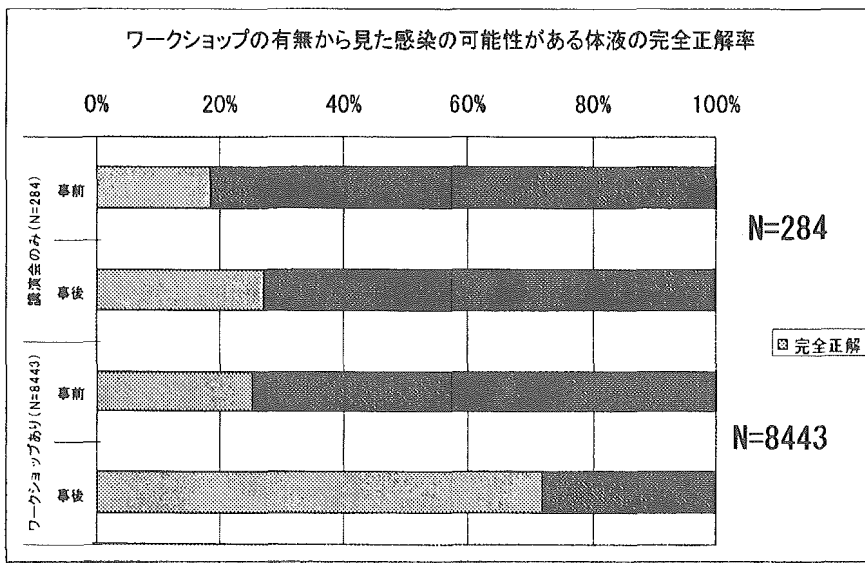


N=5361

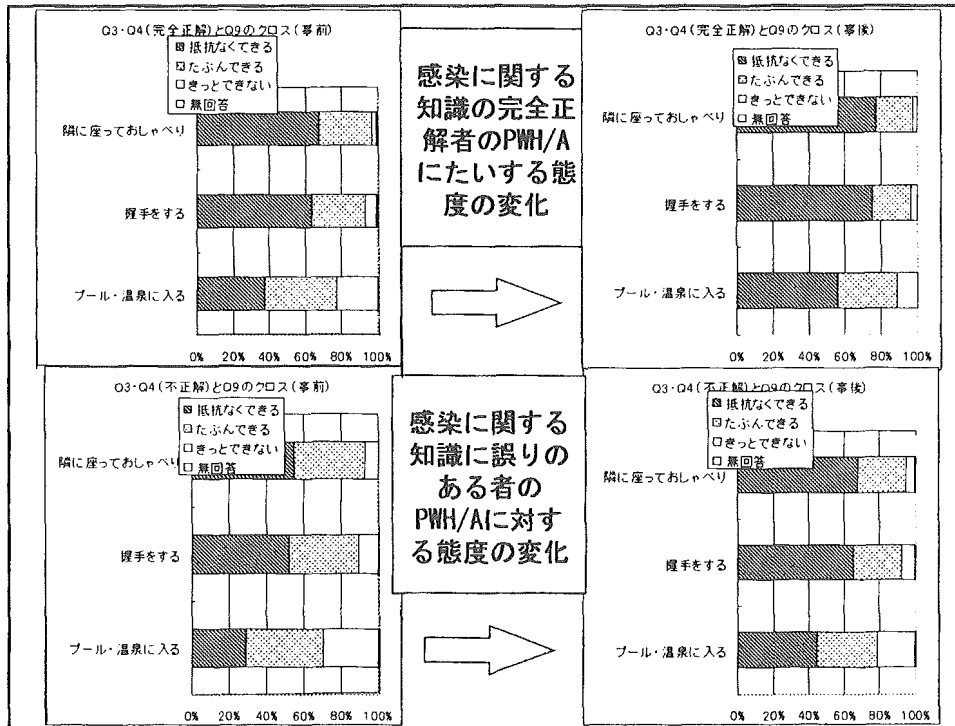
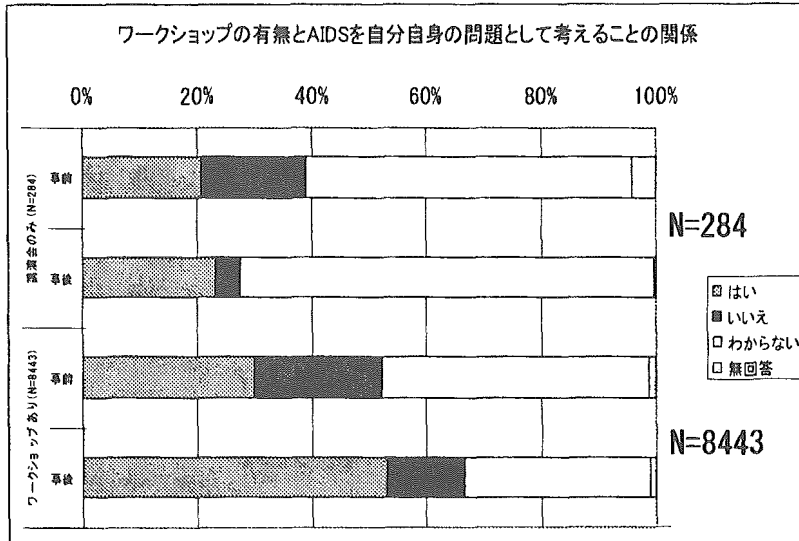
参加者規模別にみた若者相互の啓発プログラム： 事前・事後の変化



高校生を対象にした講演のみによるAIDS啓発と 若者相互の啓発プログラム：事前・事後の変化の比較 ～感染源に関する知識の完全正解者の割合～

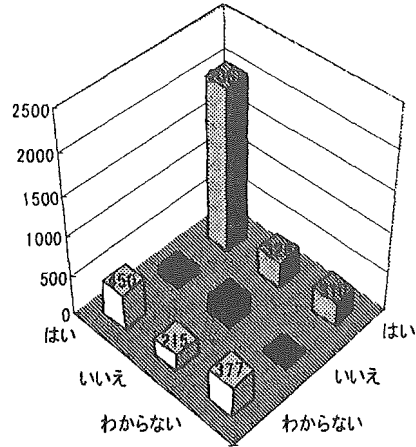


高校生を対象にした講演のみによるAIDS啓発と
若者相互の啓発プログラム:事前・事後の変化の比較
～「AIDSを自分の問題と考える」者の割合～



高校生を対象にした若者相互のAIDS啓発プログラム： ～エイズのイメージの変化と自尊感情の変化～

□ わからない
■ いいえ
▣ はい

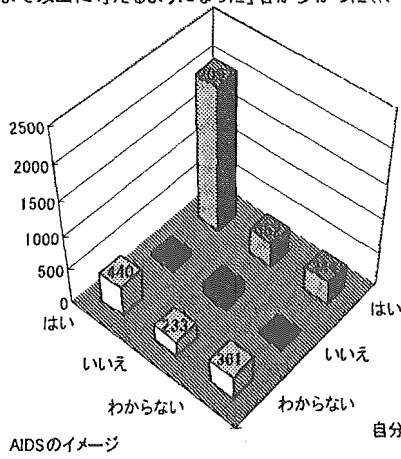


啓発講座後に「AIDSのイメージが変わった」と回答する者には、特に「今回の経験を通して自分のことを今まで以上に考えるようになった」の回答が多かった(N=4138)

自分のことを考える

高校生を対象にした若者相互のAIDS啓発プログラム： ～エイズのイメージの変化と他尊感情の変化～

「AIDSのイメージが変わった」と答えた者に「今回の経験を通して自分以外の人のことを今まで以上に考えるようになった」者が多かった(N=4138)



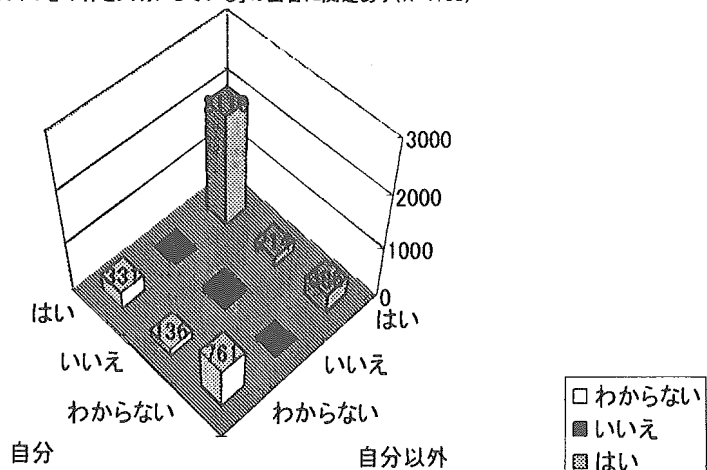
□ わからない
■ いいえ
▣ はい

AIDSのイメージ

自分以外のことを考える

高校生を対象にした若者相互のAIDS啓発プログラム： ～自尊感情と他尊感情の変化～

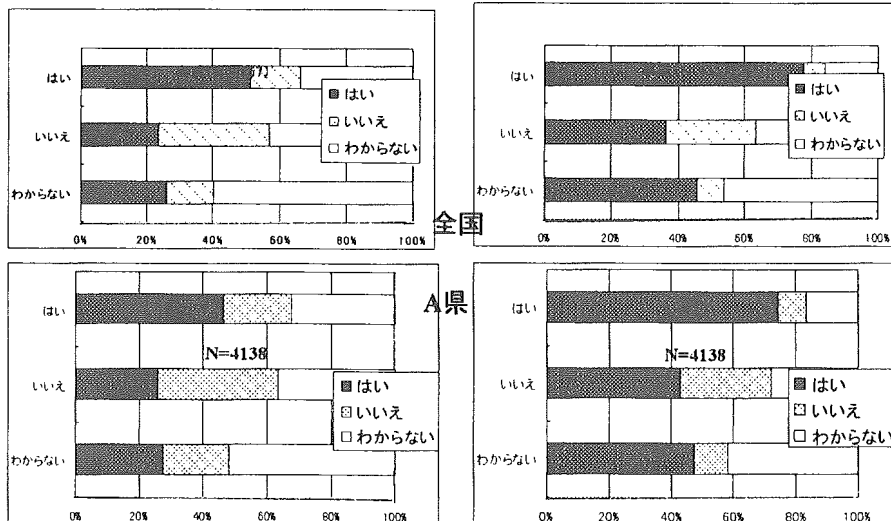
「自分の心や体を大切にしている」と
「自分以外の人の心や体を大切にしている」の回答に関連あり(N=4138)



高校生を対象にした若者相互のAIDS啓発啓発プログラム： 全国とA県の事前・事後の比較 ～エイズや性について「友達と話してみたいか」の回答別にみた エイズを「自分の問題と考える」者の割合の変化～

事前

事後



6 事業評価アンケート

対象者別

小学校低学年用（事前・事後）

小学校高学年用（事前・事後①・②）

アンケート用紙説明文

中学校用（事前・事後）

高等学校用（事前①・②・事後①・②）

療育対象者用（はじめ・あと）

実施機関用

事業評価表

すきなばんごうをかきましょう
(たんじょうびなど)

--	--	--	--

1. じぶんのことが好きですか？
 - ・すきなところが多い
 - ・きれいなところがおおい
 - ・わからない

2. じぶんのからだを大切にしていますか？(けんこうにきをつけている)
 - ・している
 - ・していない
 - ・わからない

3. 自分がいやだと思ったことは「いやだ」と言えますか？
 - ・いえる
 - ・いえない
 - ・わからない

4. じぶんのきもちをだれかに話すことがありますか？
 - ・よく話す
 - ・あまりはなさない
 - ・わからない

5. こまっているともだちがいたら、たすけますか？
 - ・はい
 - ・いいえ
 - ・わからない

6. しんどそうなともだちがいたら、声をかけたり何かしてあげますか？
 - ・はい
 - ・いいえ
 - ・わからない

7. 家の人とよく話しますか？
 - ・よくする
 - ・あまりしない
 - ・わからない

8. 電車で人にせきをかわってあげられますか？
 - ・できる
 - ・できない
 - ・わからない

すきなばんごうをかきましょう
(たんじょうびなど)

--	--	--	--

1. じぶんのことが好きですか？
 ・すきなところが多い ・きれいなところがおおい ・わからない
2. じぶんのからだを大切にしていますか？(けんこうにきをつけている)
 ・している ・していない ・わからない
3. 自分がいやだと思ったことは「いやだ」と言えますか？
 ・いえる ・いえない ・わからない
4. じぶんのきもちをだれかに話すことがありますか？
 ・よく話す ・あまりはなさない ・わからない
5. こまっているともだちがいたら、たすけますか？
 ・はい ・いいえ ・わからない
6. しんどそうなともだちがいたら、声をかけたり何かしてあげますか？
 ・はい ・いいえ ・わからない
7. 家の人とよく話しますか？
 ・よくする ・あまりしない ・わからない
8. 電車で人にせきをかわってあげられますか？
 ・できる ・できない ・わからない

小学校
高学年
用(事前)

いっしょ エイズ
一緒に話そうよ!! AIDSのこと

好きな数字を4つ選んで入れてください。

[誕生日などでもいいよ]

--	--	--	--

1 あなたは、ふだん身近な人に次のことができますか

- | | | | | |
|---|-------------------|-----|--------|---------|
| a | となりに座っておしゃべりする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| b | あくしゅする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| c | 同じハンカチタオルを使って汗をふく | できる | たぶんできる | きつとできない |
| d | いっしょにプール・温泉に入る | できる | たぶんできる | きつとできない |
| e | のみ物のまわしのみをする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| f | いっしょに遊ぶ | できる | たぶんできる | きつとできない |

2 エイズのウイルスは、何からうつるとおもいますか、すべてえらんでください

1. ^{けつえき}血液 2. ^{えき}だ液(つば) 3. ^{せいえき}精液 4. ^{なみだ}涙 5. ^{ぼにゅう}母乳 6. ^{あせ}汗 7. ちつ(ワギナ)を守っている^{えき}液

3 エイズのウイルスは、どんなことでうつるとおもいますか、すべてえらんでください

1. せき、くしゃみ 2. ^{あくしゅ}握手 3. ^{せいこう}性交 4. ねこ・犬などのペット 5. ^{ちゅうしゅつ}注射の^{まわしうち}回し打ち
6. おかあさんから、おなかのあかちゃん 7. プールやおふる 8. カヤダニ 9. けが

4 エイズは、自分自身にも関係があると思いますか はい いいえ わからない

5 あなたは、エイズの病気にかかっている人と次のことができますか

- | | | | | |
|---|-------------------|-----|--------|---------|
| a | となりに座っておしゃべりする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| b | あくしゅする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| c | 同じハンカチタオルを使って汗をふく | できる | たぶんできる | きつとできない |
| d | いっしょにプール・温泉に入る | できる | たぶんできる | きつとできない |
| e | のみ物のまわしのみをする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| f | いっしょに遊ぶ | できる | たぶんできる | きつとできない |

6 自分のことが好きですか はい いいえ わからない

7 自分の心と体を大切にしていますか はい いいえ わからない

8 ともだちや他の人の心と体を大切にしていますか はい いいえ わからない

9 エイズや性についてともだちとはなしてみたいですか はい いいえ わからない

いっしょ
一緒に話そうよ!! エイズ
AIDSのこと

好きな数字を4つ選んで入れてください。

(誕生日などでもいいよ)

--	--	--	--

1 あなたは、ふだん身近な人に次のことができますか

- | | | | | |
|---|-------------------|-----|--------|---------|
| a | となりに座っておしゃべりする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| b | あくしゅする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| c | 同じハンカチタオルを使って汗をふく | できる | たぶんできる | きつとできない |
| d | いっしょにプール・温泉に入る | できる | たぶんできる | きつとできない |
| e | のみ物のまわしのみをする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| f | いっしょに遊ぶ | できる | たぶんできる | きつとできない |

2 エイズのウイルスは、何からうつるとおもいますか、すべてえらんでください

1. 血液 ^{けつえき} 2. だ液 (つば) ^{えき} 3. 精液 ^{せいえき} 4. 涙 ^{なみだ} 5. 母乳 ^{ぼにゅう} 6. 汗 ^{あせ} 7. ちつ (ワギナ) を守っている液 ^{えき}

3 エイズのウイルスは、どんなことでうつるとおもいますか、すべてえらんでください

1. せき、くしゃみ 2. 握手 ^{あくしゅ} 3. 性交 ^{せいこう} 4. ねこ・犬などのペット 5. 注射の回し打ち ^{ちゅうしゃ まわしうち}
6. おかあさんから、おなかのあかちゃん 7. プールやおふろ 8. カヤダニ 9. けが

4 エイズは、自分自身にも関係があると思いますか はい いいえ わからない

5 あなたは、エイズの病気にかかっている人と次のことができますか

- | | | | | |
|---|-------------------|-----|--------|---------|
| a | となりに座っておしゃべりする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| b | あくしゅする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| c | 同じハンカチタオルを使って汗をふく | できる | たぶんできる | きつとできない |
| d | いっしょにプール・温泉に入る | できる | たぶんできる | きつとできない |
| e | のみ物のまわしのみをする | できる | たぶんできる | きつとできない |
| f | いっしょに遊ぶ | できる | たぶんできる | きつとできない |

6 自分のことが好きですか はい いいえ わからない

7 自分の心と体を大切にしていますか はい いいえ わからない

8 ともだちや他の人の心と体を大切にしていますか はい いいえ わからない

9 エイズや性についてともだちとはなしてみたいですか はい いいえ わからない

いっしょ
一緒に話そうよ！！ エ イ ズ
A I D S のこと

- 12 YYS Pをうけて、自分のことを今までよりも考えるようになったと思いますか？
はい いいえ わからない
- 13 YYS Pをうけて、自分以外の人を今までよりも考えるようになったと思いますか？
はい いいえ わからない
- 14 AIDSのイメージは変わったと思いますか？
はい いいえ わからない
- 15 YYS Pをうけて、良かったと思いますか？
良かった ふつう 良くなかった
- 16 YYS Pをうけて、楽しかったですか？
楽しかった ふつう つまらなかつた
- 17 若い人たちがきてくれたのはどうでしたか？
良かった ふつう 良くなかつた□
(その理由は何ですか?)

一緒に話そうよ！！ AIDSのこと

はじめまして。私たちは「HIVと人権・情報センター」という^{エイズ、エイチアイブイ}AIDSやHIVに関わる支援団体でボランティアをしているメンバーです。

近いうちに、みなさんと一緒にAIDSのことについて考える時間を持てることを、とてもうれしく思っています。

私たちがみなさんに伝えたいメッセージが十分に伝わっているかどうかアンケートを実施させていただきたいと思います。それはプログラムの実施前と実施後に行われます。

どうぞご協力ください。

このアンケートは学校の成績などには一切関係はありません。

このアンケートは名前も性別も書く必要はありません。

実施前と実施後であなたにどのような変化があるのかを知りたいので、事前のアンケート用紙と事後アンケート用紙には同じ整理番号を書いてください。そして、覚えておくためにこの用紙に記入して置いてください。

下の口に4ケタの数字を書いてください。

□	□	□	□
---	---	---	---

例えば・・・誕生日や携帯電話番号の下4けたなど
(誕生日が7月5日なら 0705 としてください。)

実施後にもアンケートをしますのでこの紙をなくさないでください。

ご協力ありがとうございます。

特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター

一緒に話そうよ！！ エ イ ス A I D S の こと

整理番号に使用します。
好きな数字を4つ選んで入れてください。

[誕生日、携帯電話の下4けたの番号など]

--	--	--	--

1 日常場面で身近な人にあなたは以下のことができますか

	抵抗なくできる	たぶんできる	きっとできない
a となりに座っておしゃべりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b 握手する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c 同じハンカチタオルを使って汗をふく	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d 一緒にプール・温泉に入る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e 飲み物の回しのみをする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f 好きな人だとして、そのほほにキスをする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2 HIVに感染した人はすべてAIDSを発病すると思いますか はい いいえ わからない

3 HIVが感染する可能性のあるのはどれですか、すべて選んでください

1. 血液 2. だ液 3. 精液 4. 涙 5. 母乳 6. 汗 7. 膈分泌液

4 HIVが感染する可能性があるのはどれですか、すべて選んでください

1. せき、くしゃみ 2. 握手 3. 性行為 4. 猫犬などのペット
5. 注射の回し打ち 6. 母子感染 7. プールや銭湯の利用 8. 蚊やダニ

5 AIDSは遺伝すると思いますか はい いいえ わからない

6 AIDS問題を自分自身の問題でもあると考えられますか はい いいえ わからない

7 身近な人が感染者だとしてあなたは以下のことができますか

	抵抗なくできる	たぶんできる	きっとできない
a となりに座っておしゃべりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b 握手する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c 同じハンカチタオルを使って汗をふく	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d 一緒にプール・温泉に入る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e 飲み物の回しのみをする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f 好きな人だとして、そのほほにキスをする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

8 自分のことが好きですか はい いいえ わからない

9 自分の心と体を大切にしていますか はい いいえ わからない

10 自分以外の人の心と体を大切にしていますか はい いいえ わからない

11 AIDSや性のことについて友達などと話してみたい
と思いますか はい いいえ わからない